

祇園祭 綾傘鉾

2022

公益財団法人
綾傘鉾保存会
綾傘鉾後援会

<http://www.ayakashoko.or.jp>

〒600-8431

京都市下京区綾小路通室町西入ル善長寺町135番地(大原神社内)



令和4年 祇園祭綾傘鉾稚児



大西 涼太 (おおにし・りょうた)
京都市立高倉小学校 2年



加納 知幸 (かのう・ともゆき)
京都市立安井小学校 2年



平井 潤 (ひらい・じゅん)
京都市立太秦小学校 2年



布本 蒼大 (ふもと・そうた)
京都市立榎原小学校 3年



宮本 圭祐 (みやもと・けいすけ)
京都市立朱雀第七小学校 3年



村上 和駿 (むらかみ・かずし)
京都女子大学附属小学校 4年

綾傘鉾「稚児説明会」

5月15日(日)9時過ぎ、大原神社境内および町家において、令和4年度の祇園祭綾傘鉾稚児に選ばれた稚児父兄が、初めて保存会のメンバーとの顔合わせをおこなった。コロナ禍で丸2年も待ってもらった稚児関係者だが、以前にお兄ちゃんか稚児を経験されているご家族の顔をみて、役員一同も思わず笑顔が浮かんだ。

例年なら6名一堂におこなう説明会だが、今回は3名ずつ2回に分けて実施。寺田理事長が稚児の名簿を読み上げると、明るく元気な声で応えていた。そして関係者から、7月7日の「稚児結納の儀」稚児社参の儀についての約束事、玉串の奉納などの説明を受けた。祇園祭の稚児としての基本を身につけていただくため、稚児父兄の解説読本や所作のDVDを用意し、手渡された。

さらに、1階では女性部のみなさんによる稚児の衣装合わせが慎重におこなわれた。これは小学校2年、3年、4年生と1つより成長した分だけ、背丈や胴まわり、手の長さ、足や頭のサイズなど、いつもより念入りに測定がおこなわれた。その結果、それぞれの稚児にふさわしい衣装を用意していただくことができた。感謝、感謝。



心をこめて厄除け粽入れ

6月26日(日)、大原神社境内と寺田ガレージにおいて、宵山期間などに授与する「厄除け粽」を作る粽入れがおこなわれた。保存会ではこしも佛教大学(八木透教授)と華頂短期大学(松尾章子教授)の学生さんに手伝ってもらい、4千個を丁寧に作り上げた。粽に「厄除」「縁結」と書かれた大原神社の護符と熨斗紙を取付け、ビニール袋に包む作業を町内会の人たちと一緒にこなした。

寺田理事長は、3年ぶりの山鉾巡行に向けて、保存会や町内会は楽しみでワクワクしており、より一層の疫病退散の祈りを込めて、粽づくりができたと思顔を浮かべていた。



結納の儀

七月七日(木)午前十二時に集合し、八坂神社常磐新殿において、
祇園祭綾傘鉾「稚児結納の儀」が厳粛に執りおこなわれた。



宵山・日和神楽

社参の儀

午後2時過ぎに常磐新殿を出て、祇園祭綾傘鉾「稚児社参の儀」のため、
八坂神社南楼門より本殿に向かい、野村宮司より宣状を授かった。



あざやか、棒振り囃子
 山根会長率いる壬生の囃子方のみなさん。いつも素晴らしいお囃子に感謝。こしし、綾傘鉾保存会では、棒振り、太鼓の衣装が豪華絢爛に新しくなり、お囃子と共に躍る金色の鱗柄もいちだんと輝いていた。鉦、笛、太鼓、そしてかけ声。鮮やかな棒振り踊りと、太鼓を打つ二人のリズムミカルな動きによって、より一層の高揚感に包まれる。そして綾傘鉾一行はゆっくと華やかに都大路を進む。こししは3年ぶりということもあって、辻廻しに手間どっている様子で、巡行に時間がかかった。
 沿道に詰めかけた大勢の人々を魅了させながら新町通でも棒振り囃子を披露しながら、綾傘鉾はわが善長寺町に戻っていく。お疲れさんでした。



**3年ぶり山鉾巡行
 熱中症対策と感染防止に配慮**

7月17日(日)8時半過ぎ、町内を出発。光輝く青空、ぎらぎらと照りつける太陽。蝉の喧しい鳴き声もハレの日を祝っているように聞こえてくる朝。ほんの少し。やわらかい風が祭り人の熱気を冷ますように流れている。大原神社に出発前に参拝を終えた稚児6名をはじめ、参加者たちは3年ぶりの巡行だけに歓びもひとしお、みなさん笑顔がまぶしい。久しぶりに顔なじみの仲間たちだ。こしし、正使に宮本隆太くんが選ばれ、この日のために「くじ改め」における所作を幾度も練習を重ね、本番に挑んだ。その成果もあつて見事に大役をこなした。特に最後の扇子さきは決まっていた。



巡行を終えて

残暑の候、皆様方におかれましては益々ご清祥のこととお慶び申し上げます。平素は綾傘鉾保存会にご理解とご支援を賜わり、心より厚く御礼申しあげます。ことは、ようやく巡行ができ、関係者一同本来の祇園祭ができた大変喜んでおります。

振り返ってみると、コロナ禍のなか集みや会議すら町家でできず、お隣の京都経済センターの大きな会議室等でおこない、さらにネット通信で京都以外の役員とも繋ぎ、この夏の祇園祭をつめてきました。4月20日に祇園祭山鉾町連合会ならびに八坂神社さまから祇園祭実施の決断がなされ、長い間待っていたいただいた稚児関係者に連絡を取り、5月説明会、衣装等の準備、6月は粽入れの手配、7月吉符入り、くじ改め、7日の稚児結納と社参の儀、10日神泉苑の倉庫からラチ等を町内に搬入。13日は鉾建て、駒形提灯に明かりが入る14日からの宵山。神社飾りに映える大原神社への参拝者も多く、ラチ等による厄除け粽の授与も16日の夕方には完売御礼。夜9時過ぎ、新しくなった日和神楽の台車とともに御旅所へ向けて出発。棒振り囃子を奉納、参拝を終え、宮川町へ向かい、歌舞練場のあつた近くで二人による棒振り囃子。戻りは松原通を通って因幡堂、最後にホテル日航プリンセス京都において棒振り囃子を披露して町内に戻り、明日の巡行に備える。

17日、巡行当日は早朝より2基の鉾の組み立て、衣装着替え、総合チェック、大原神社参拝をすまし、町内をいざ出発。コロナも怖いながらも熱中症の方に気をくばり、巡行者一人ひとりにホルダー付きドリンクを用意。新しく用意した一文字傘も強い陽射し除けに活躍した。そして、巡行の神事を無事に終え、町内に戻れたことは何よりの幸せ。ようやく緊張が少しほぐれた。関係者で鉾を解体し、神泉苑の倉庫に運ぶ。女性陣は衣装関係の片付けと掃除等、疲れを見せず全力で尽くしてくれた。明日から来年に向けて頑張ろうと誰もが心を熱くしたと思う。最後になったが、囃子方の皆様のおかげで華やかに厳かに巡行できたこと、ここに厚く感謝し御礼を申しあげます。そして、来年の夏、祇園祭の皆様とお逢いできることを心より楽しみに願っております。

令和4年 葉月 吉日

公益財団法人綾傘鉾保存会

理事長 寺田 進

天一位大原神社

綾傘鉾の善長寺町にある大原神社(おおはらじんじや)の母体は、福知山市三和町の天一位大原神社(おおぼらしんじや)。つながりは古く、江戸時代からといわれ、京の御礼販売所として綾小路通の大原神社があったといわれている。

新緑に映える山々が眩しい5月2日、天一位大原神社では「春季例大祭」がおこなわれた。コロナ禍の関係で本殿の席を減らし、本殿前に来賓席が設けられていた。立派な2基の神輿も本殿横に飾られ、残念ながら出番はなし。この日、保存会から寺田理事長、梶居副理事長、大嶋理事、八木理事、橋本理事、奥山評議員が出席した。毎年、石清水八幡宮(いわしみずはちまんぐう)の田中恆清宮司を来賓に迎え、厳かに大祭が執りおこなわれるのだが、ことは八坂神社の野村明義宮司がご臨席され、さらに晴れやかな儀式となった。祇園祭関係者にとっては嬉しい限りで豪華メンバーだと驚くばかり。野村宮司から大原神社の林秀俊宮司に「神剣」が奉納された。また、来年は5年に一度の練り込み神事がおこなわれる。子どもの大奴・小奴の所作がとても可愛く、ユーモアを感じさせるだけに今からとても楽しみだ。



お友だちをご紹介ください。綾傘鉾後援会会員大募集！ 祇園祭を愉しもう

京都が好きの人。祇園祭が好きの人。ぜひとも綾傘鉾後援会へ。既にご入会の方は、お知り合いの方をご紹介ください。年会費一萬円で、特典いろいろ。記念品進呈、宵山期間中(14~16日)後援会特別席(冷たい飲物付)にご招待。山鉾巡行に参加することも可能です。お申し込みは、ファックスかメールで事務局までお知らせください。届き次第、ご連絡させていただきます。

<http://www.ayakasahoko.or.jp>

織姫社七夕祭に「棒振り囃子」奉納

8月7日(日)夕刻、今宮神社(京都市北区紫野)において織姫社七夕祭が斎行された。これは西陣の業祖神である織姫大臣に感謝を捧げる祭りで、織姫の神と西陣の人々がひとつになつて西陣を作り上げてきたことを象徴する祭り。毎年、綾傘鉾保存会ならびに囃子方によって棒振り囃子を奉納している。



一澤信三郎帆布と綾傘鉾かばん誕生



かばんサイズ
縦:22横:18奥行:9底:
27マチ12cm内ポケット付

良質の帆布かばんとしておなじみの一澤信三郎帆布の協力で、綾傘鉾オリジナルかばんができました。【限定数50個】ご希望の方には壹万円(送料別途)でお分けします。お申し込みはメールかファックスで事務局まで。



- 理事長 寺田 進
- 副理事長 上田 真三
- 副理事長 梶居 史良
- 理事 岸 幸司
- 理事 橋本 繁美
- 理事 西澤 徹
- 理事 大嶋 博規
- 理事 八木 敬也
- 理事 瀬川 透
- 理事 坂口 勝宏
- 理事 並河 透
- 理事 佐藤 悦雄
- 理事 杉山 純平
- 理事 八木 早麻里
- 理事 鶴沢 憲一
- 理事 久保田 恵友
- 理事 岡村 誠悟